

～企業の信頼性向上のために～

ISO 内部監査 でSDGSの達成 状況を併行 して自己評価 する方法

今日の目次

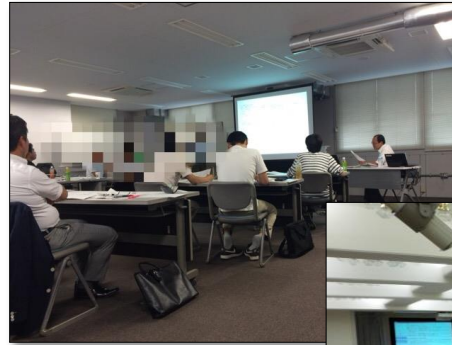
1. SDGs「統合評価」を思いついた背景
2. SDGsをどのように管理するか
 - ① 目標達成に向けた「国連フォローアップとレビュー」の活用
 - ② 定量的目標管理を行うための事例
3. ISO内部監査の場を活用したSDGs自己評価
 - ① ISO内部監査の場を活用したSDGs自己評価
 - ② ISOマネジメントシステム規格の要求事項とSDGs自己評価のためのチェックリスト
4. SDGs自己評価のために必要な力量
5. 企業の信頼性向上のために
 - ① ISOマネジメントシステム規格の活用
 - ② 第三者認証の活用

プロフィール

長谷川泰子

JCSRA登録SDGs評価員

ISO審査機関で約17年、
講習事務局・PR担当として勤務





1. SDGs「統合評価」を 思いついた背景

審査機関での活動から見たもの

経営層が感じる課題の多くは・・・

- ①形骸化する内部監査
- ②ISO審査の負担 → ISO審査の受審は止め、自己評価やSDGs登録・認証に
- ③審査のための品質方針、環境方針

① 形骸化する内部監査

形骸化の原因は様々だけど・・・

① ISO19011の理解不足

- すべてが自己流で、納得のいく監査になりにくい

② 監査目的のマンネリ化

- 監査目的が、規格のオウム返し。
- ビジネストレンド、時代・社会・世界等の要請が反映されず、ビジネスの実態に合いにくい

②ISO審査の負担

自治体認証はISO審査に比べ、様々な点で負担が少ない、
と思われている。

参考：SDGs登録・認証制度について

「地方公共団体のための地方創生SDGs登録・認証等制度
ガイドライン」

発行：内閣府。第一版2020年度。

趣旨：地域の中小企業における取組みの「見える化」の必要性の高まり
を見込み、地方公共団体における「地方創生SDGs登録・認証等制度」
の構築を支援するため

自治体におけるSDGs登録・認証制度の課題

多くは「活動」、「目標、計画」があれば、登録・認証される仕組みとなっている。

⇒取り組んだ結果の「パフォーマンス」は、評価対象では無い

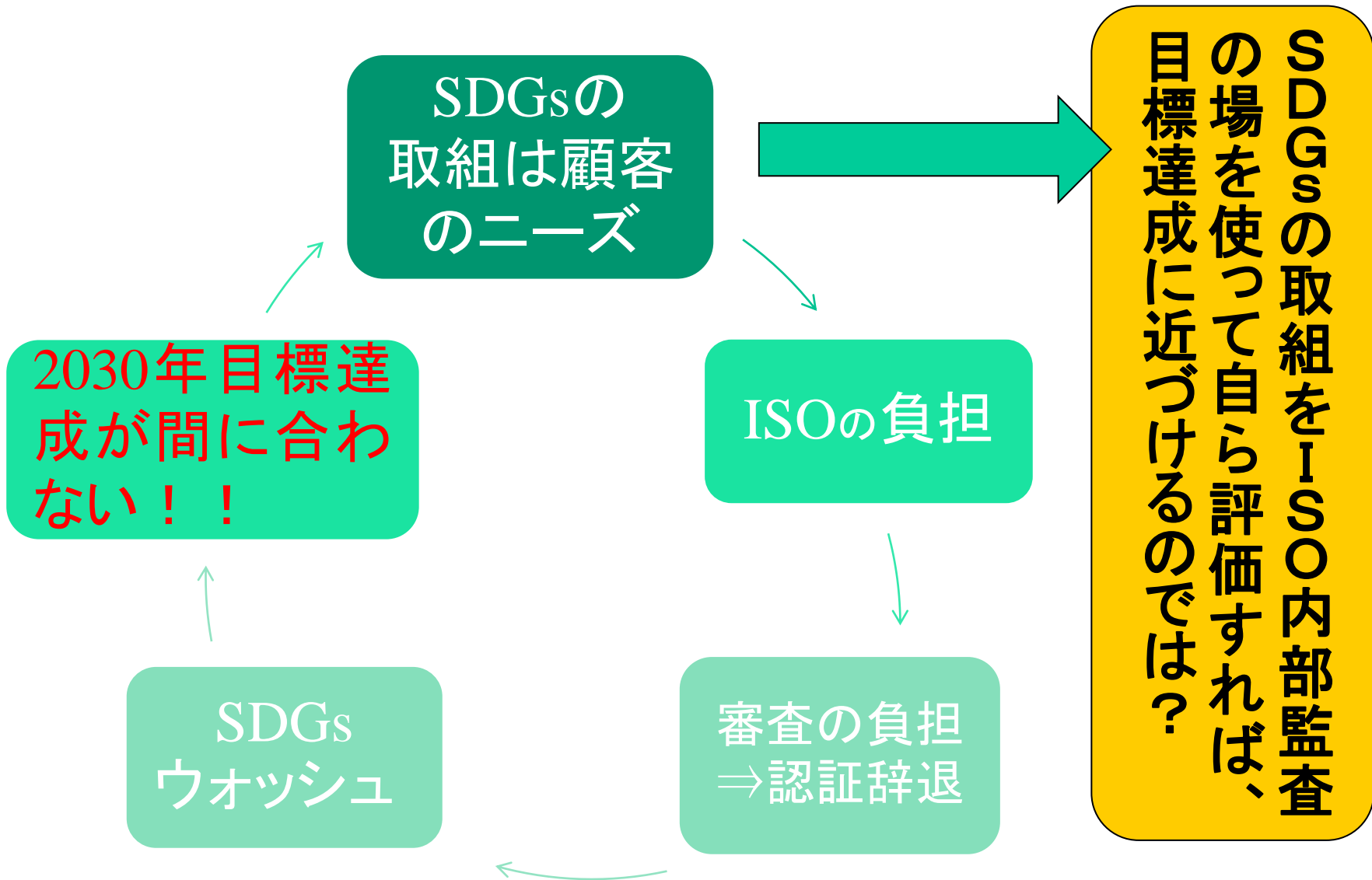
- ✓ 認証制度では3年後の更新時にパフォーマンスを見る自治体があるものの、目標未達は認証取消の条件ではない。
- ✓ 制度は取り組みのトリガーにはなるものの対外的PRになりがち。
- ✓ 169のターゲット、232の指標と、かけ離れた活動・目標・計画になっているケースが多い。パフォーマンスの改善とならずSDGsウォッシュ(一過性の取り組み、見せかけ 等)に。

③ ISO審査のための品質方針、環境方針

(ISO9000:2015, 3.9.2)「顧客の期待が満たされている程度に関する顧客の受け止め方」

(ISO14001:2015 4.2)「環境マネジメントシステムに関連する利害関係者とそのニーズ・期待を決定」

⇒ **SDGsの取組は顧客(世界)のニーズ。組織のマネジメントシステムに反映されてこそ、改善が進む。**



2. SDGsをどのように 管理するか

日本

OECD加盟国

戻る 概要 指標 ファクトシート 政策への取り組み

SDG指標ランク

21 / 166

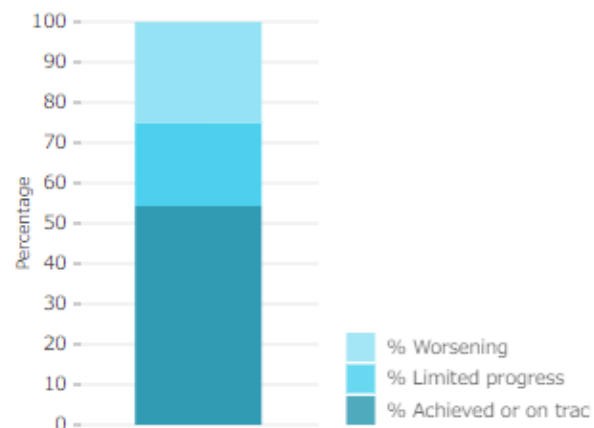
SDGインデックス
スコア

79.4

スピルオーバースコア

72.2

日本のSDG目標の達成状況（%推移指標）



SDG ダッシュボードとトレンド

目標をクリックすると、詳細情報が表示されます。



ダッシュボード: ● SDG達成 ● 課題は残る ● 重大な課題が残っている ● 大きな課題が残っている ● 情報が入手できない

トレンド: ↑ SDG達成が軌道に乗っているか、維持している ↗ やや改善中 → 停滞している ↓ 減少中 → トレンド情報が入手できない

『持続可能な開発目標(SDGs)報告2023:特別版』発表に関するプレスリリース(2023年7月10日・日本語訳)

- 評価が可能な約140のターゲットのうち半数で、望ましい軌道から「中程度～重度」の逸脱が起きている
- 進捗が順調なターゲットは15%、さらに、ターゲットの約3分の1は2015年の基準値から進捗が停滞しているか後退
- 一方、達成に向け努力はまだ必要なものの、気候変動対策が活発になっていることは歓迎すべき事柄。多くの国が2050年までにカーボンニュートラルを目指すと宣言、温室効果ガスの排出削減に向けた取り組みを強化。加えて、企業がサステナビリティに積極的に取り組むようになり、サステナビリティに関する報告をする企業は、2016年から3倍増えた。
- 出所:国連『持続可能な開発目標(SDGs)報告 2023:特別版』

これで出来る 実践的SDGs 統合評価

経営者、CSR/SDGs、品質・環境推進者～学生のための

これで出来る 実践的SDGs統合評価

日本CSR協会 監修

各種マネジメントシステムなどの
審査/監査時に併行してSDGs評価

SDGs取組宣言からの脱皮！！

【持続可能な目標値：取組でn%削減等/目標達成の進捗管理】

(フォローアップとレビューの推進)

イー・キュー・マネジメント技研

① 目標達成に向けた 「国連フォローアップとレビュー」の活用

2030アジェンダ

2030アジェンダ 日本語仮訳 目次

- ◆ 前文
- ◆ 宣言
- ◆ 持続可能な開発目標(SDGs)とターゲット
- ◆ 実施手段とグローバル・パートナーシップ
- ◆ フォローアップとレビュー

SDGsは2030アジェンダの、中心に書かれている

2030アジェンダの紹介

- 前文：主題であるSDGsの達成を目指す決意を記載。「人間、地球、繁栄、平和、パートナーシップ」。またMDGsの後継であることの紹介。
- 宣言：国連持続可能な開発サミットで持続可能な開発目標が策定されたことの宣言。アジェンダの特徴、目指す世界の姿、直面する課題と対応の手段、ステークホルダーの役割が理解できる。
 - 導入部
 - 我々のビジョン
 - 我々の共有する原則と約束
 - 今日の世界
 - 新アジェンダ
 - 実施手段
 - フォローアップとレビュー
 - 我々の世界を変える行動の呼びかけ

国内・地域・全世界の各レベルで、SDGsの取組を最大化するために必要なフォローアップとレビューについての記載がある。

国連のSDGsの「フォローアップとレビュー」(2015年アジェンダーA70L.1)

【フォローアップとレビュー】

72. 国連は、15年に向けた本アジェンダの実施に関する組織的なフォローアップ・レビューへの関与にコミットする。

74. フォローアップ・レビューの基本原則

- a) 国家レベルのプロセスによる成果は、地域及び全世界レベルでのレビューのための土台となるものである。
- b) 実施手段を含むユニバーサルな目標とターゲットを実施し、その進捗を計る。
- c) 長期的な方向性、達成度合い、課題、ギャップ、死活的に重要な成功の要素を見出し、各国への支援を行う。
- d) 包摂的で、参加型の、透明性を持ち、すべてのステークホルダーによる報告をサポートする。
- e) 人間中心で、ジェンダーに配慮し、人権を尊重し、特に、貧困で脆弱な最も取り残された人々に焦点を当てる。
- f) 既存のプラットフォーム及びプロセスを活用する。
- g) 各国の主導で行われる評価やデータに基づく正確な根拠となる。
- h) アフリカ諸国、後発開発途上国における国家資料システム及び評価事業の強化を含む能力開発拡大が必要。

75. 目標とターゲットは、グローバルな指標によってフォローアップされる。 指標の枠組みは、「SDG 指標に関する機関間専門家グループ (IAEG)」が策定。

76. 開発途上国へ統計局及びデータ・システムの能力強化のための支援を行う。

77. 地方、国、地域、全世界レベルでの定期的且つ包摂的なレビューの実施に取り組むこと。既存のフォローアップ・レビューの機関及びメカニズムを最大限活用する。

【国内レベル】

79. 各々の国のイニシアティブで行われる定期的で包摂的な進捗に関するレビューを行うこと。

【地域レベル】

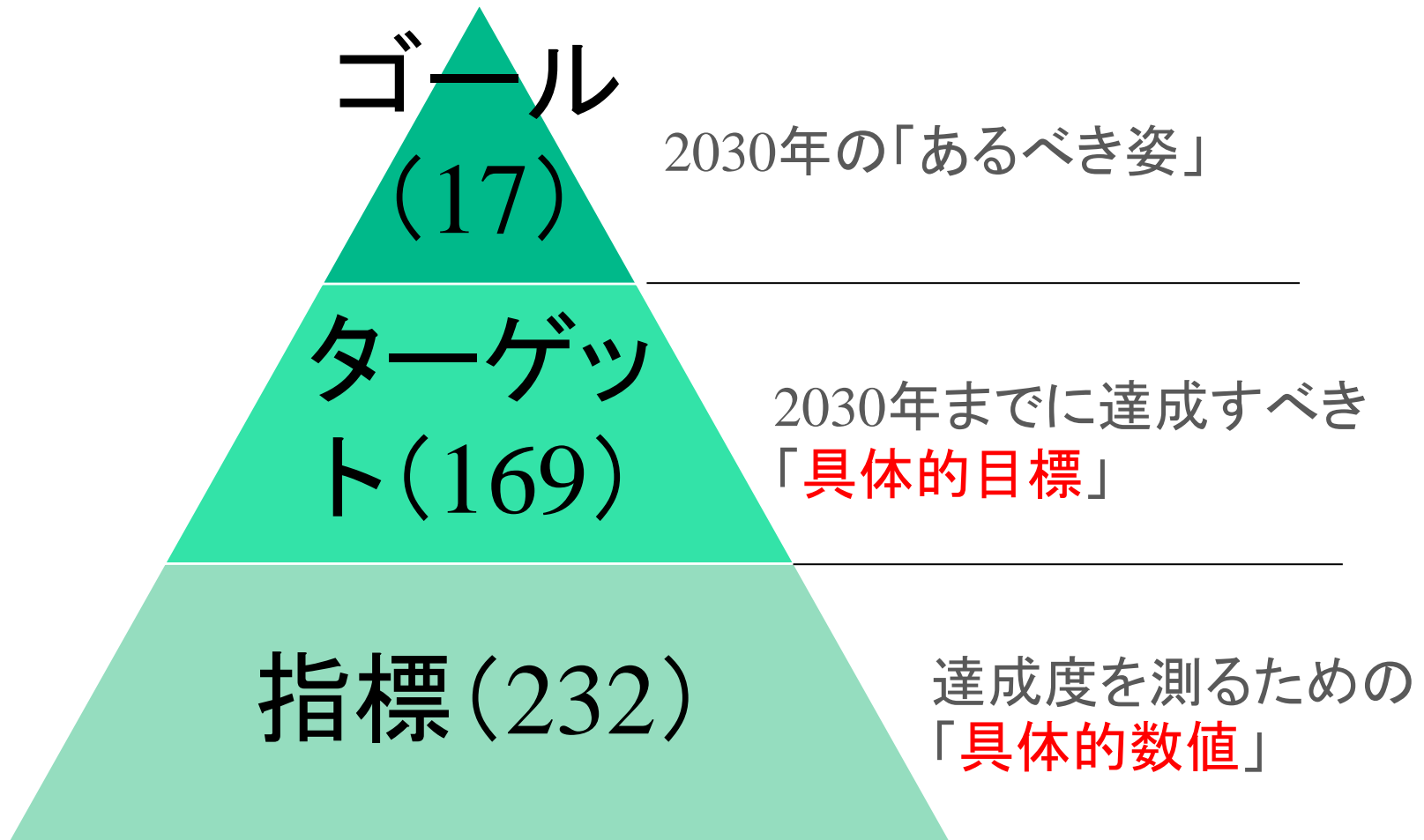
80. 加盟国に対し最も適切な地域フォーラムを特定することを求める。

【全世界レベル】

82. 「ハイレベル政治フォーラム (HLPF)」は全世界レベルのフォローアップ・レビューを監督し、国連システムのグローバルな指標枠組み及び各国の統計・情報システムにより、作成されたデータで、年次SDGs進捗報告に繋げる。

- 2030アジェンダのA70L.1は国連の立場として、各国からのSDGs進捗状況の報告内容を「信頼できるデータ」として使用したいという意向であることが理解できます。
- 「信頼できるデータ」として扱うためには、ISOマネジメントシステムのPDCAサイクルを使った管理が有効です。
- 「データの評価」には、ISO内部監査を活用することができます。

② 定量的目標管理を行うための例

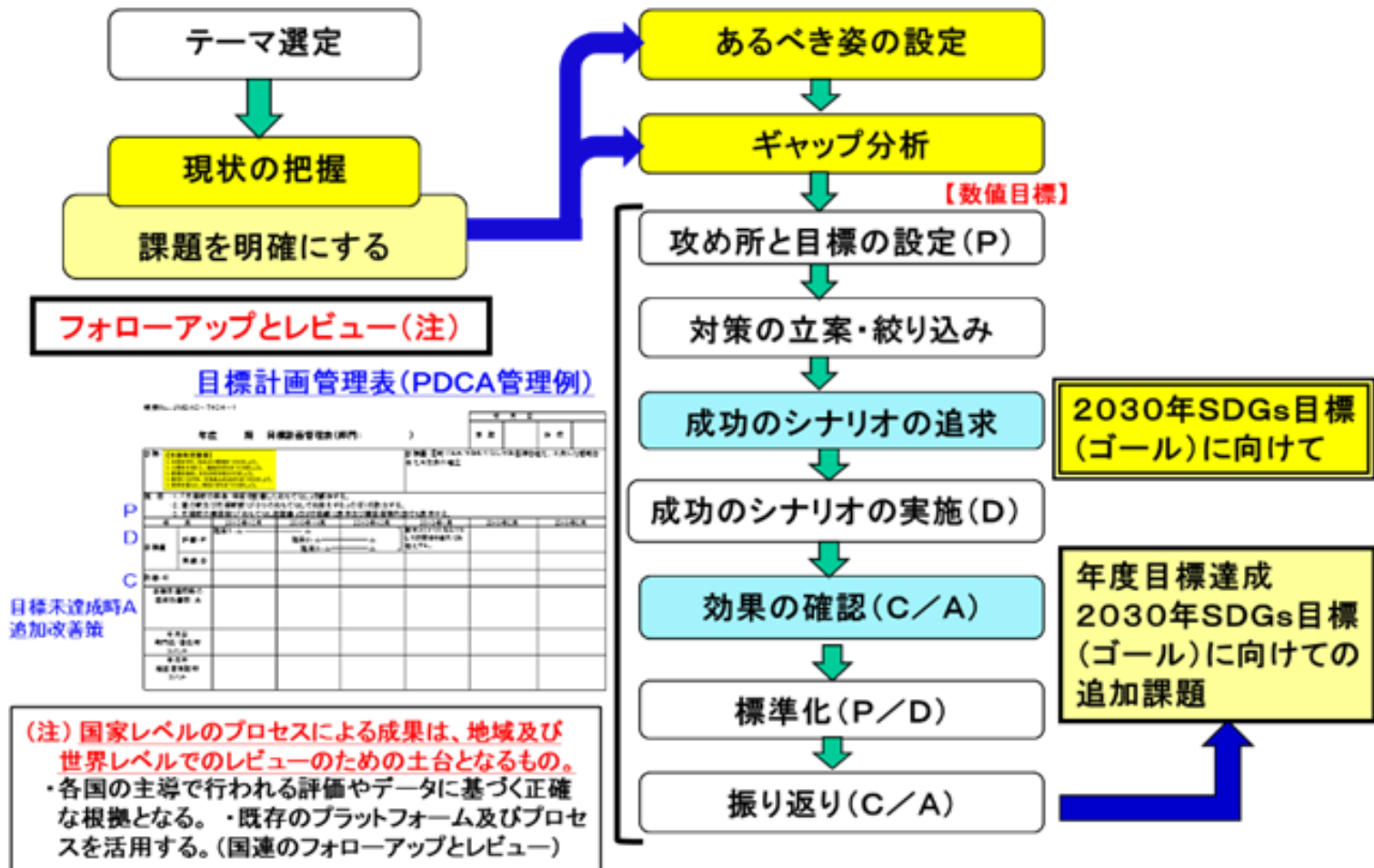


大切なのは、具体的な目標と数値は「レベルに合わせて」設定すること

- 次に紹介するのは、定量的目標管理の推進方法です。
- SDGsの17のゴールは、「人権」「環境」に関するものが多く、品質MSとは無関係と考えがちで、管理も数値ではなく、経験に基づいて検討しているケースが多く見られます。
- 一方品質に関する業務では、現状データをベースに、PDCAサイクルを回して具体的な数値目標を掲げ管理しています。
- SDGsの目標も、PDCAサイクルに載せて具体的な数値を設定して管理することが重要です。
- QCストーリーで課題を抽出、対策立案(P)、対策実施(D)、効果の確認(C/A)を推進。その結果を織り込み業務の標準化を図り、継続的改善につなげます。

目標管理：課題達成型QCストーリー 【SDGsゴール達成に向けて】

目標管理：課題達成型QCストーリー【SDGs目標・ゴール達成に向けて】
【持続可能な社会実現のための幅広い課題を抽出し、その解決を推進しよう！】



- 次に紹介するのは、目標計画管理表です。
- PDCAを回し持続可能な開発になるよう目標を展開。毎年発展的な目標を設定し、2030年に向けて目標達成すべく、PDCA管理を推進します。
- この定量的PDCA管理に関する文書が「目標計画管理表」です。
- 目標、目標値、施策は、国連の定めた**169のターゲット、232の指標に沿ったもの**であることが重要です。
- しかし国レベルの目標をそのまま中小企業で掲げることは現実的ではありません。
 - ⇒ 中小企業では、QCストーリーを使って「169のターゲット、232の指標」を**自社の目標、自社の数値**として、課題に落とし込んでいくことが重要です。

目標計画管理表（例としてSDGs 目標12）

概要No.:

		年 月 日					
		承認		作成			
年度 期 目標計画管理表(部門:)							
目標:目標12. 持続可能な生産消費形態を確保する ⇒商品の開発/製造/販売/消費者使用/廃棄の循環で環境に優しい製品・サービスを提供する ⇒海洋プラスチックゴミ対策の製品・サービスの提供				目標値:プラスチック製品のサステナブル素材(植物由来素材など)に切替え率を50% 2030年に100%にする。			
施策 - 施策1:サステナブル素材(植物由来素材など)の適合性調査 施策2:サステナブル素材使用の新製品の製造工程デザイン - 施策3:サステナブル素材使用の新製品の製造・改善 施策4:サステナブル素材使用の新製品の市場導入・顧客満足情報収集・改善							
年 月		2020年 5月	2020年 7月	2020年 9月	2020年 11月	2021年 1月	2021年 3月
目標値 (P)(D)	計画	— 施策1	— 施策1	— 施策2	— 施策3	新製品販売・顧客情報収集 施策4	新製品:サステナブル素材切替50%
	実績						
評価(G)							
目標未達成時の追加改善策 (A)							

SDGs 目標と中小企業の推進施策（事例1）

(注) 中小企業の場合は、SWOT分析結果に経営面・製品開発・製造方法等の強化もあるが、[下表はSDGs目標に関連する施策を記載。](#)

SDGs目標【ISO26000の社会的責任の中核主題】	中小企業のSWOT分析後の推進施策
目標1. あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる【人権】	○地域の貧困による弱者に対する生活環境改善に協力する。
目標2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する【コミュニティ参画・開発】	○海外の貧困国に向けた、貧困国内で自立出来る技術を提供する。
目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する【組織統治】【労働慣行】【コミュニティ参画・開発】	○高齢者、障がい者等への弱者に対する自立できる支援を行う。
目標4. すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する【人権】【コミュニティ参画・開発】	○自治体と協力して、生涯教育の推進を行う
目標5. ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女子のエンパワーメントを行う【人権】	○多様性のある人々の特性を活用を行う
目標6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する【環境】	○緊急時の井戸水補給方法を検討する
目標7. すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する【消費者課題/環境】	○太陽光を活用するエネルギー確保を推進する
目標8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセントワーク)を促進する【労働慣行】【組織統治】【人権】	○残業時間などを就業規則I指定内に納める監視を行う ○モチベーションのあがる職場に改善する
目標9. 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る【組織統治】	○中期計画で、自社の特質を捉えた製品・サービスの開発を推進する

SDGs 目標と中小企業の推進施策（事例1）

(注) 中小企業の場合は、SWOT分析結果に経営面・製品開発・製造方法等の強化もあるが、[下表はSDGs目標に関連する施策を記載。](#)

SDGs目標【ISO26000の社会的責任の中核主題】	中小企業のSWOT分析後の推進施策
目標10. 各国内及び各国間の不平等を是正する 【人権】【組織統治】	○パワハラ／セクハラなどの人権問題の回避の監視体制を構築する
目標11. 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する【組織統治】	○震災時等で、避難民に対する支援を行う ○災害に強いまちづくりに協力する
目標12. 持続可能な生産消費形態を確保する 【消費者課題】【環境】	○商品の開発／製造／販売／消費者使用／廃棄の循環で環境に優しい製品・サービスを提供する
目標13. 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる【環境】	○CO2やフロン削減のための設備の改善や作業員の温度管理を推進する
目標14. 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する【環境】	○海洋資源管理を行い、その監視装置などを開発して、持続可能な世界を確保する
目標15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する【環境】	○生物多様性で種の激減に関する監視を行い、土地の劣化対策として植林などを行う
目標16. 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する【公正な事業慣行】	○法令順守(廃棄物管理関係等) ○内部通報制度の整備・活用
目標17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する【組織統治】	○NPO／NGOを活用し持続可能な開発な製品・サービスを提供する。

3. ISO内部監査の場を 活用したSDGs自己評価



①ISO内部監査の場を活用したSDGs自己評価

- 次に紹介する図は、JCSRAで採用している5段階評価です。
- 企業ではISO内部監査の場を使って、ISO規格要求事項の監査をしながら併行して、関連するSDGsの取組みや目標についても自己評価すると良いでしょう。時間や人の節約につながり業務負担を軽減できます。
- 気づきを得られ、監査の場が効果的な人材育成の場となります。
- 評価基準は、普段ISO内部監査で使っているものでも良いし、JCSRAの5段階評価でもよいでしょう。

※なお、JCSRAの5段階評価は、JISQ9006に準じて作られています。

(※JISQ9006は、2014-12-22日付けで廃止)

JCSRA「SDGs☆」「SDGs☆☆」評価基準 (5段階)

2.1 日本CSR協会の「SDGs☆」「SDGs☆☆」評価基準(5段階)

評価できない(1点): SDGs目標推進に関する行動が見られない。

あまり評価できない(2点):
SDGs目標推進に関する行動が、一部の部門で見られる。

P

普通(3点):
ひとつのSDGs目標推進に関する行動が、全部門で見られる。

D

持続可能な目標管理ができています(4点):ひとつのSDGs中期目標を定め、毎年施策を打ち、改善し、目標管理を行い、段階的に中期目標達成活動を実施している。(成熟度向上)

C/A

評価できる(5点): 効果が期待されている定量的なSDGs目標を定め、毎年管理して、長期に渡る改善計画を策定している。(成熟度向上)

C/A大

判定: 評価「SDGs☆」: 評価点: 2点、3点
評価「SDGs☆☆」: 評価点: 4点以上

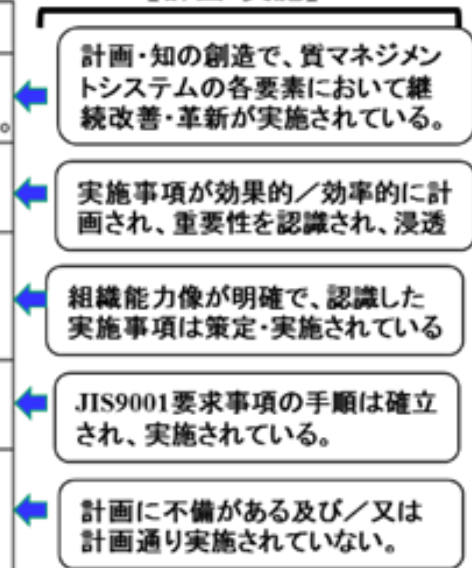
PDCA管理推進

ISOの評価基準(専門家による)とJISQ9006成熟度モデル比較

【ISOの評価基準】

成熟度レベル	採点	基準
最適化している 段階 C/A大	5点	データ収集・原因分析がシステム的に行われ、予防処置を含め、継続的な改善処置が行われている。
定量的に管理された段階 C/A	4点	監視機能は整備され、データ収集/原因ふんせきにより改善処置がなされ、効果が出始めている。
定義された段階 D	3点	ルールどおり実施して、監視を行っているが、問題など発生時に改善処置を行っているので、効果は出ているが、十分とはいえない。
管理された段階 P	2点	ルールどおり実施しているが、監視が不十分なため効果が出ていない。
初期段階	1点	ルール化されていない。ルール化がされているが、一部の部門で使用しているために、効果が出ていない。

JISQ9006の共通成熟度モデル 【計画・実施】



【結果】

PDCA管理のレベルを示し、改善、継続改善により、結果的にコストダウン、他社との差別化施策導入により売上増へ。
⇒他社との差別化戦略の成熟度を示す。

【結果】

競合者との比較
下位・中位下・中位上・上位・トップクラス

日本CSR協会のISO26000CSR、おもてなし規格認証、SDGsもこの評価基準に準じている

- 次に紹介するのは、品質マネジメントシステム（JISQ9001）の主要な要求事項と、対応する事例が記載されたものです。
- 対応する事例とは、先に紹介の「② 定量的目標管理を行うための例」によって抽出した課題です。その横に、SDGs関連目標を記載しています。
- ISO監査時に併行して、SDGs目標の取組が、実施され、定量的管理がされているか、自己評価します。
- ISOの審査員や企業の内部監査員にとっては「SDGs」の理解を促進することにつながり、具体的な目標達成につながることを期待出来ます。
- また事業者としてSDGs自己評価結果からSDGs推進目標の達成具合を公表することができ、顧客の信頼向上を期待出来ます。

②自己評価のためのチェックリスト

ISO9001 品質MSとSDGsの取組みチェックシート(1)

ISO9001 品質マネジメントシステム (QMS)			抽出課題 (業種に該当する課題を選択して下さい) (課題と同レベルのSDGs目標が対応しています)	SDGs関連目標																																																	
大項目	主要点	対応																																																			
4 組織の状況 4.1組織及びその状況の理解	外部及び内部の課題を明確にし、組織の目的及び戦略的な方向性を確立する	SWOT分析等で、本業における「S:強みW:弱みO:機会T:脅威」を抽出し、品質に関する課題を抽出し、緊急課題解決/将来のイノベーションビジネスを創作機会)	⇒5項の目標計画進捗管理表に重要課題を管理する。																																																		
4.2利害関係者のニーズ及び期待の理解	顧客要求事項及び適用される法令・規制要求事項を満たす製品及びサービスの提供	業種に関連する顧客要求事項の明確化、該当法規制を明確にし、その法令を遵守する仕組みづくり	課題1・社内報や掲示板等で法令順守(コンプライアンス)の重要性を全社員に向けて発信している(基本)(☆)	【目標16】持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する【公正な事業慣行】																																																	
4.3QMSの適用範囲の決定	全社か、対象組織など	従業員への全体像把握の学習																																																			
4.4QMS及びそのプロセス	プロセスの理解し、改善へ	従業員へのプロセス(PDCAサイクル)などの学習																																																			
5 リーダーシップ 6.1 リスク及び機会への取組	5.2品質方針の確立 6.2品質目標及びそれを達成するための計画策定 品質方針、品質目標達成計画	品質目標達成計画表(定量的目標/納期達成時期など、未達成の際は増員や教育実施などの施策を実施)の策定、定期的な進捗管理して、目標達成を図る。⇒SDGsは、持続可能な開発目標で、2030年までにエネルギー達成と宣言しても、毎年の進捗管理をしないと未達成となる。	課題1・地域の貧困による弱者に対する生活環境改善に協力する。(☆) ・2030年までに30件提案・改善し、その維持管理に協力する。(☆☆) 課題2・貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られる活動として、支援金を送付している。(☆) ・毎年支援金を送付している。(☆☆) 課題3・分煙、禁煙対応や定期健康診断、ストレスチェック、ノー残業デー、ウエアラベル端末による健康管理等による健康維持・向上を推進。(☆) 課題4・地域との対話・見学会などを実施し、対話に基づき、事業の地域への影響の把握を行い改善に努めている。(☆) 課題5・スキル習得・向上を目的としたOJT/OFF-JTプログラム、スキルマップ、教育体系の整備等によりスキル習得・向上を推進する。(☆) 課題6・健康経営の視点、就業規則の見直し、有給休暇取得促進、時短、在宅勤務、職場環境整備、女性活躍・ダイバーシティ、労務コミュニケーション等による働きやすさ改善・稼働率向上推進(☆) 課題7・顧客からのクレーム対応など、品質を保證する仕組みを構築している(☆) ・品質マネジメント規格維持を外部審査対応を含め、継続している。(☆☆) 課題8・地域社会、企業内などで弱者が自立できるような能力強化推進や周囲で支え合う活動を実施している。(☆) 課題9・地域との対話・見学会などを実施し、対話に基づき、事業の地域への影響の把握を行い改善に努めている(☆) 課題10・社内報や掲示板等で法令順守(コンプライアンス)の重要性を全社員に向けて発信している(基本)(☆) ・取引先との対話を通じた人権侵害防止等の取組状況の確認活動を行っている(チャレンジ)(☆) 課題11・Sedex(サプライヤーエシカル情報共有プラットフォーム)等を活用したサプライチェーン上のリスク管理を行っている(☆) (注)環境に関する課題は、ISO9001では対象外なので、環境に関するSDGs目標は、対象外とした。	【目標1】あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる【人権】 【目標2】飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する【コミュニティ参画・開発】 【目標3】あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する【組織統治】【労働慣行】【コミュニティ参画・開発】 【目標4】すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する【人権】【コミュニティ参画】 【目標5】ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う【人権】 【目標8】包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する【労働慣行・課題2 労働条件及び社会的保護】 【組織統治】【人権】 【目標9】強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る【組織統治】 【目標10】各国内及び各国間の不平等を是正する【人権】【組織統治】 【目標11】包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市・人間居住を実現する【組織統治】 【目標16】持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する【公正な事業慣行】 【目標17】持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する【組織統治】																																																	
<p>目標計画表事例(進捗管理による定量的管理の推進必要)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">期</th> <th colspan="2">目標計画管理表(部門)</th> <th colspan="2">年 月 別</th> <th rowspan="2">達成</th> <th rowspan="2">評価</th> </tr> <tr> <th>2020年5月</th> <th>2020年7月</th> <th>2020年9月</th> <th>2020年11月</th> <th>2020年1月</th> <th>2020年3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">目標</td> <td>計画</td> <td>計画1・計画2</td> <td>計画3</td> <td>業務効率10%上昇</td> <td>業務効率12%上昇</td> <td>業務効率15%上昇</td> <td>計画4</td> <td>計画5</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">評価(C)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">目標未達成時の 罰則改善案 (A)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>目標:目標3 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する 目標4: 質の高い教育をすべての人々に提供し、生涯学習の機会を促進する ⇒高齢者、障がい者等への教育に対する自立できる支援を行う。 注: 期間中、費率1%から5%に料上する。 計画1: 顧客要求事項の明確化による、品質2: 青年の障がい者の就業促進支援を推進する。 計画2: 障がい者の特性を考慮した業務効率化(イノベーション)を推進する。 計画4: 障がい者にアンケート調査し、業務効率向上の 計画5: 障がい者にアンケート調査し、業務効率向上の</p>			年度	期	目標計画管理表(部門)		年 月 別		達成	評価	2020年5月	2020年7月	2020年9月	2020年11月	2020年1月	2020年3月	目標	計画	計画1・計画2	計画3	業務効率10%上昇	業務効率12%上昇	業務効率15%上昇	計画4	計画5	実績								評価(C)									目標未達成時の 罰則改善案 (A)										
年度	期	目標計画管理表(部門)			年 月 別		達成	評価																																													
		2020年5月	2020年7月	2020年9月	2020年11月	2020年1月			2020年3月																																												
目標	計画	計画1・計画2	計画3	業務効率10%上昇	業務効率12%上昇	業務効率15%上昇	計画4	計画5																																													
	実績																																																				
評価(C)																																																					
目標未達成時の 罰則改善案 (A)																																																					

ISO9001 品質MSとSDGsの取組みチェックシート(1)

ISO9001 品質マネジメントシステム (QMS)		
大項目	主要点	対応
4 組織の状況 4.1組織及びその状況の理解	外部及び内部の課題を明確にし、組織の目的及び戦略的な方向性を確立する	SWOT分析等で、本業における「S:強み,W:弱み,O:機会,T:脅威」を抽出し、品質に関する課題を抽出し、緊急課題解決/将来のイノベーションビジネスを創作(機会)
4.2利害関係者のニーズ及び期待の理解	顧客要求事項及び適用される法令・規制要求事項を満たす製品及びサービスの提供	業種に関連する顧客要求事項の明確化、該当法規制を明確にし、その法令を遵守する仕組みづくり
4.3QMSの適用範囲の決定	全社か、対象組織など	従業員への全体像把握の学習
4.4QMS及びそのプロセス	プロセスの理解し、改善へ	従業員へのプロセス(PDCAサイクル)などの学習
5 リーダーシップ 5.1リーダーシップとコミットメント 6. 計画	5.2品質方針の確立 6.2品質目標及びそれを達成するための計画策定 ・品質方針、品質目標達成計画	品質目標達成計画表(定量的目標/納期達成時期など、未達成の際は増員や教育実施などの施策を実施)の策定、定期的な進捗管理して、目標達成を図る。⇒SDGsは、持続可能な開発目標で、

<p style="text-align: center;">抽出課題 (業種に該当する課題を選択して下さい) (課題と同レベルのSDG&目標が対応しています)</p>	<p style="text-align: center;">SDG&関連目標</p>
<p>⇒5項の目標計画進捗管理表に重要課題を管理する。</p>	
<p>課題1・社内報や掲示板等で法令順守(コンプライアンス)の重要性を全社員に向けて発信している(基本)(☆)</p>	<p>【目標16】持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する【公正な事業慣行】</p>
<p>課題1・地域の貧困による弱者に対する生活環境改善に協力する。(☆) ・2030年までに30件提案・改善し、その維持管理に協力する。(☆☆) 課題2・貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られる活動として、支援金を送付している。(☆) ・毎年支援金を送付している。(☆☆) 課題3・分煙、禁煙対応や定期健康診断、ストレスチェック、ノー残業デー、ウェアラブル端末による健康管理等による健康維持・向上を推進。(☆)</p>	<p>【目標1】あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる【人権】 【目標2】飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する【コミュニティ参画・開発】 【目標3】あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する【組織統治】【労働慣行】【コミュニティ参画・開発】</p>

ISO9001 品質MSとSDGsの取組みチェックシート(2)

品質マネジメントシステム(QMS)ISO9001の主要規格と関連するSDGs目標(2/2)

ISO9001 品質マネジメントシステム(QMS)			抽出課題 (業種に該当する課題を選択して下さい) (課題と同レベルのSDGs目標が対応しています)	SDGs関連目標
大項目	主要点	対応		
7. 支援 7. 1資源(人々/インフラストラクチャ/作業環境/監視/測定器の精度監視/組織の知識)	7. 2 力量 7. 3認識 7. 4コミュニケーション(内部/外部) 7. 5文書化した情報(最新版管理など)	作業環境整備、品質保証のための監視装置の精度維持、作業マニュアルの文書管理、顧客・社内のコミュニケーション推進のために、人材育成(力量)の階層教育/専門教育などの充実を図る。	課題1 ・スキル習得・向上を目的としたOJT/OFF-JTプログラム、スキルマップ、教育体系の整備等によりスキル習得・向上を推進する。(☆) 課題2 ・設備定期点検、避難訓練、非常口・避難経路の表示、転倒対策や腰痛対策等による危険防止軽減:業務効率向上推進(☆)	【目標4】 すべての人々への包括的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する【人権】【ユニティ参照】 【目標8】 包括的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する【労働慣行:課題2 労働条件及び社会的保護】 【組織統治】【人権】
8. 運用	8. 1 運用の計画及び管理 ・製品・サービスの要求事項の明確化 ・6条の目標計画の取組の実施・製品・サービスの合否判定	本業の製品・サービスの製造工程管理	課題1 ・スキル習得・向上を目的としたOJT/OFF-JTプログラム、スキルマップ、教育体系の整備等によりスキル習得・向上を推進する。(☆)	【目標4】 すべての人々への包括的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する【人権】【ユニティ参照】
	8. 2 製品及びサービスに関する要求事項 コミュニケーション/要求事項の明確化/ 要求事項のレビュー/要求事項の変更	本業の製品・サービスの製造工程管理	課題1 ・サービスマニュアル、作業手順書の整備・電子化等による業務改善推進:業務効率向上推進(☆)	【目標8】 包括的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する【労働慣行:課題2 労働条件及び社会的保護】 【組織統治】【人権】
	8. 3 製品及びサービスの設計・開発 ・計画/イット/管理/アウトプット/変更	本業の製品・サービスの設計開発管理	課題1 ・ディーセントワーク(働き甲斐のある人間らしい働く)の環境を下記の計画で2030年までに改善・維持管理を推進する。(年1件☆☆/年3件☆☆☆)	
	8. 4 外部から提供されるプロセス、製品及びサービス(購買管理など)	本業の製品・サービスの設計開発管理	課題1 ・Sedex(サプライヤーエシカル情報共有プラットフォーム)等を活用したサプライチェーン上のリスク管理を行っている(☆)	
	8. 5 製品及びサービスの提供(本業) ・製造及びサービス提供の管理・識別及びトレーサビリティ・顧客又は外部提供者の所有物・保存・引渡し後の活動・変更の管理	本業の製品・サービスの製造・設計工程管理	課題1 ・CSやESの理解や業務改善等、各種取組の効果的な実行・運用に向けて、社内外のデータを収集・蓄積・分析し、合理的な意思決定や業務・事業成果の振り返りに活用し、業務効率化推進。(☆)	
	8. 6 製品及びサービスのリリース 8. 7 不適切なアウトプットの管理	本業の製品・サービスの製造・設計工程管理	課題1 ・CSやESの分析データを基に、お客さまへ価値を提供できているかという観点から、お客さま接点業務を起点にサービスの仕組みを振り返り、改善につなげる取組や仕組みにより、業務効率化推進。(☆)	
9. パフォーマンス評価	9. 1 監視、測定、分析及び評価 ・顧客満足・分析及び評価 9. 2 内部監査 9. 3 マネジメントレビュー	・顧客満足度データ把握の仕組み、このデータの分析手順策定、課題抽出方法~改善につなげ、顧客リピータ確保、新規顧客増につなげる方法の見える化 ・内部監査育成・手順の明確化 ・経営者参加のマネジメントレビューで、改善課題の優先順位、次年度の課題などの明確化を図る。	課題1 ・顧客からのクレーム対応など、品質を保証する仕組みを構築している(☆) ・顧客の声を社内共有するための基本方針・体制・ルールを策定、従業員向け研修の実施している(☆) ・品質マネジメント規格維持を外部審査対応を含め、継続している。(☆☆)	【目標9】 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る【組織統治】
10. 改善	10. 2 不適合及び是正処置 10. 3 継続的改善	・内部監査・製品検査・市場などで抽出された不適合品の応急処置/是正処置(再発防止)/予防処置(他製品やシステムでの再発防止)の手順の明確化。改善結果のフォローアップ(有効性の確認、不良品の回収計画など)実施。 ・時系列監視を行い、継続的改善=持続可能な品質目標管理を行う手順の明確化 ⇒ SDGs	課題1 ・顧客からのクレーム対応など、品質を保証する仕組みを構築している(☆) ・顧客の声を社内共有するための基本方針・体制・ルールを策定、従業員向け研修の実施している(☆) ・品質マネジメント規格維持を外部審査対応を含め、継続している。(☆☆) 課題2 ・地域との対話・見学会などを実施し、対話に基づき、事業の地域への影響の把握を行い改善に努めている(☆)	【目標9】 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る【組織統治】 【目標11】 包括的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する【組織統治】

4. SDGs自己評価のために必要な力量

- 監査に関する力量
 - JISQ19011
- ISOマネジメントシステムに関連する力量
 - JISQ9000ファミリー、JISQ14001シリーズ
- SDGsに関する知識
 - SDGs(ゴール、ターゲット、指標)
 - 2030アジェンダなど関連する文書
- できれば次の知識もあると良い
 - ISO26000(社会的責任規格)

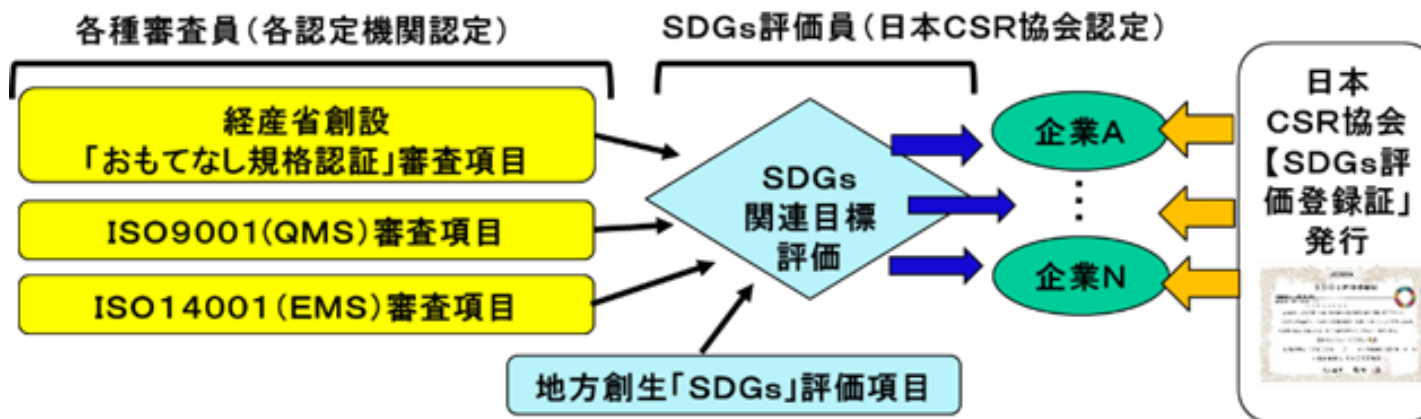
- 次に紹介するのは、JCSRA SDGs評価員の教育、力量についてです。
- JCSRAでは、よりよい自己評価を行っていただくため「SDGs評価員資格制度」を設けています。
- SDGs評価員として登録するには、JCSRAの研修を受講、必要なカリキュラムを修了する必要があります。
- SDGs評価員となったらその資格を「取引先の第2者監査」に生かすもできます。また、自己評価結果をJCSRAに提出し判定を受けることで、登録証の取得も可能です。
- SDGsの取組状況を「登録証」という形で公表することは、サプライチェーン全体の取組みにもつながり、SDGsの目標達成に一步でも近づけることが期待できます。

SDGs コース・カリキュラム

SDGs 評価員との連携体系

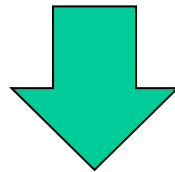
SDGsコース・カリキュラム／SDGs評価員との連携体系

	コース	カリキュラム
S D G S	①SDGs推進・評価コース <対象> SDGs/CSR推進リーダー/担当者 <参加料> 1名につき 一般：2万円（税別） (注)テキスト(資料)を含みます。 会員：1.8万円（税別） <講義時間帯> 4時間（13.00～17.00）	①SDGsとCSR（ISO26000）/おもてなし規格 認証（経産省創設）との関連 ②国連の持続可能な開発目標SDGsとは ③SDGsの取組目標選定方法及び目標計画表進捗管理方 法/SDGs評価方法
	②SDGs評価員養成コース <対象>日本CSR協会の連携SDGs評価員登録希望者 <参加料> 1名につき 一般：5万円（税別） 会員：4.5万円（税別） (注1) テキストを含みます (注2) 修了証書発行 <講義時間帯> 6時間（10.00～17.00）	①ISO26000（CSRなど）とSDGsと各種認証M S（おもてなし規格認証/ISO）の相関について ②おもてなし規格認証/ISO9001/ISO1400 1の審査項目からSDGs 17目標の関連目標の評価手法 ③演習：ロールプレイ ④筆記試験




自己評価結果の判定と登録証について

- JCSRAのSDGs評価員として登録された方は、次の方法で、その資格を生かしていただくことができます。
 1. ISO内部監査に併行してSDGs関連目標に関する評価を実施し、5段階のレベル評価を実施、記録する。
 2. 実施結果を日本CSR協会(JCSRA)に提出。
 3. JCSRAで追審査を実施し、SDGs成熟度レベルの判定を実施。
 4. JCSRA「SDGs評価登録証」発行(有償)。



注1) JCSRA追審査を含む登録証発行は有料です。
取引先の第2者監査でこの制度を用いる場合、費用は取引先か評価側のどちらかまたは折半にてご負担ください。
注2) 希望される場合、ISO9001またはISO14001MSとSDGsの取組みチェックシートを配付することが出来ます。事前にご相談ください。

国連「フォローアップとレビュー」の報告に貢献



5. 企業の信頼性 向上のために

①規格を活用しよう

規格はJISQ9001、JISQ14001だけでなく、企業活動に有用な規格がたくさんあります。様々な活動に、活用することが望まれます。

有用な規格のひとつにJISQ9004があり、自己評価について書かれています。

JIS Q 9004:2018 (ISO 9004:2018) 附属書 A 自己評価ツール

A.1 一般

自己評価は、組織のパフォーマンス及びマネジメントシステムの成熟度について ~略~ 改善及び／又は革新を必要とする領域を特定すること、並びにそれに続く行動の優先順位の決定に役立てることができる。

② 第三者認証を活用しよう

ISO26000の中には、社会的責任に関する信頼性についての項目がある。「特定の課題に関わる信頼性は、特定の**認証制度への参加を通じて高めることができる**」

製品の安全性・・・ISO9001、業界団体の主催する製品認証
環境影響・・・ISO14001、労働慣行・・・ISO45001 等

SDGsやCSRに取り組む企業にとって、
「仕組みの構築は出来たからISO認証は辞退する」は間違いで、むしろ「ISO認証」をはじめ**日本CSR協会の「CSR評価」「SDGs評価**」といった制度を活用することが望まれる。

SDGs 成熟レベル評価方法

(SDGs 17 目標別評価と組合せ評価による
1つ星～5つ星評価)

SDGs評価採点表

SDGs 目標	内容	推進事例	評価基準(5段階)					組合せ評価	
			1点	2点	3点	4点	5点		
1	貧困をなくそう	地域活性化に貢献						評価点 4点/5点 のSDGs 目標17件 のうち、 5件～9件 ある場合	評価点 4点/5点 のSDGs 目標17件 のうち、 10件以上 ある場合
2	飢餓をゼロに	海外の貧困国に向けた、貧困国内で自立出来る技術を提供する。							
3	すべての人に健康と福祉を	高齢者、障がい者等への弱者に対する自立できる支援を行う。							
4	質の高い教育をみんなに	自治体と協力して、生涯教育の推進を行う							
5	ジェンダー平等を実現しよう	多様性のある人々の特性を活用を行う							
6	安全な水とトイレを世界中に	緊急時の井戸水補給方法を検討する							
7	エネルギーをみんなにクリーンで	太陽光を活用するエネルギー確保を推進する							
8	働きがいも経済成長も	残業時間などを就業規則指定内に納める監視を行う							
9	産業と技術革新の基礎をつくろう	中期計画で、自社の特質を捉えた製品・サービスの開発を推進する							
10	人や国の不平等をなくそう	パワハラ/セクハラなどの人権問題の回避の監視体制を構築する							
11	住み続けられるまちづくりを	震災時等で、避難民に対する支援を行う							
12	つくる責任とつかう責任	環境に優しい製品・サービスを提供する							
13	気候変動に具体的な対策を	CO ₂ 削減のための設備の改善や作業員の温度管理を推進する							
14	海の豊かさを守ろう	海洋資源管理を行い、開発監視装置で魚介類を確保する							
15	陸の豊かさを守ろう	土地の劣化対策として植林などを行い生物多様性で種を保護しよう							
16	平和と公正を全ての人に	法令順守(廃棄物管理関係等)の強化							
17	パートナーシップで目標を達成しよう	NPO/NGOを活用し持続可能な開発製品・サービスを提供する。							
SDGs評価レベル(注)			—	☆	☆☆	☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆☆

(注)SDGs評価レベル:SDGs目標毎の評価「☆～☆☆☆」レベルは目標毎の評価判定が出来る。組合せ評価の場合は、総合評価4つ星、5つ星として取得出来る。

「SDGs☆」評価登録証 (見本)

(日本CSR協会発行)

「SDGs☆」評価登録証事例：日本CSR協会編



事例

5. SWOT分析結果より SDGsの関連目標計画表進捗管理(自治体事例)

5.1 「組織の状況」の把握の事例【経営課題の抽出】(事例)

「EQMLがM市役所データ調査結果から作成」

クロスSWOT分析(事例)

例:クロスSWOT分析(右図の事例参照)により、「利害関係者のニーズを配慮した外部・内部の課題」を明確にし、経営課題を抽出する。

市長宣言

年度経営方針

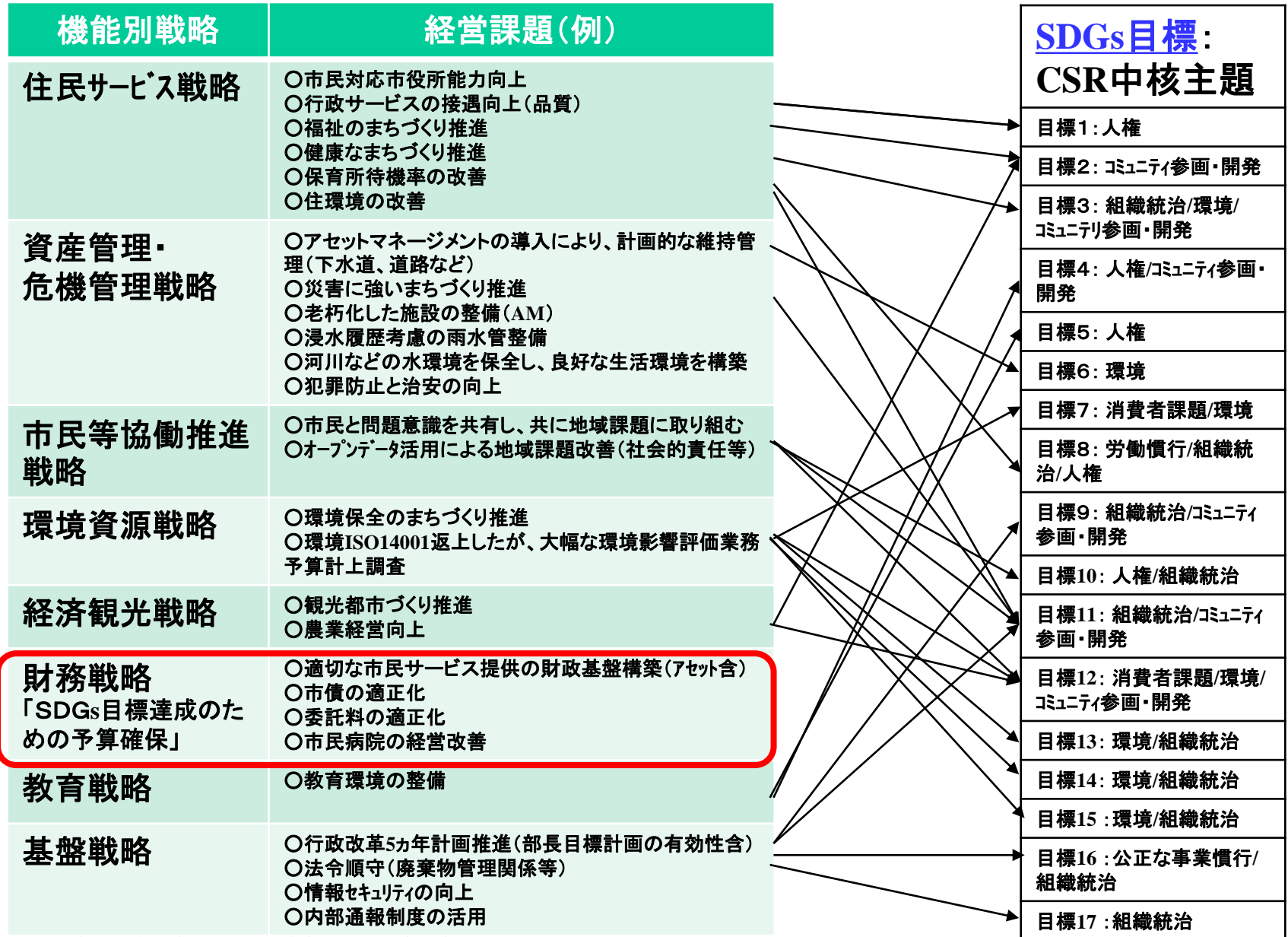
経営課題の抽出

機能別戦略に分類してもよい

内部・外部	O: 機会	T: 脅威
外部 (住民, 公共, 環境, 所管官庁, 委託先, 議会, 教育委員会等)	○安全安心な生活向上 ○健康増進(保険料減) ○業務のアウトソーシング化 ○観光都市づくり ○農業経営推進 ○児童・生徒が安全かつ快適に学校生活推進	○住民からの苦情 ○人口減少 ○国の事業制度(新、改定) ○法令・基準(廃棄物管理等) ○アカウントビリティ(説明責任) ○環境向上 ○公共用水域の水質保全 ○内部告発による社会問題化 ○治安が悪い
内部 (自治体内部)		
S: 強み	課題: S×O	課題: S×T
○行政改革5か年計画実行 ○住民流出は少ない ○福祉制度が充実 ○安定収支予算 ○返上のISO9001, ISO14001認証取得経験	○市民と問題意識を共有し、共に地域課題に取り組む ○市民対応市役所能力向上 ○適切な市民サービス提供の財政基盤構築(アセット含) ○市債の適正化 ○委託料の適正化 ○部長目標計画の有効性 ○オープンデータ活用による地域課題改善(社会的責任等) ○福祉のまちづくり推進 ○観光都市づくり推進 ○農業経営向上 ○教育環境の整備	○法令順守(廃棄物管理関係等) ○情報セキュリティの向上 ○浸水履歴考慮の雨水管整備 ○環境ISO14001返上したが、大幅な環境影響評価業務予算計上。 ○行政サービスの接遇向上(品質) ○老朽化した施設の整備(AM) ○犯罪防止と治安の向上 ○環境保全のまちづくり推進 ○健康なまちづくり推進 ○保育所待機率の改善 ○内部通報制度の活用
W: 弱み	課題: W×O	課題: W×T
○自然災害への脆弱性 ○施設の老朽化 ○サービスレベルの維持 ○市政方針の推進不十分 ○職員意識調査対応弱い ○市民病院の経営	○職員満足度・意識調査結果に関する改善対策 ○住環境の改善 ○アセットマネジメントの導入により、計画的な維持管理(下水道、道路など)	○河川などの水環境を保全し、良好な生活環境を構築 ○災害に強いまちづくり推進 ○住民などの外部環境を配慮した市政方針の推進 ○市民病院の経営改善

5.2 経営課題(事例)とSDGs目標:ISO分野別組織課題の抽出例

自治体の規模を配慮して重点機能別選択



注: EQMLがM市役所データ調査結果から作成

5.3 SDGs目標と自治体M市役所の推進施策(事例)(1/2)

SDGs目標【ISO26000の社会的責任の中核主題】	M市役所のSWOT分析後の推進施策
目標1. あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる【人権】	○福祉のまちづくり推進 ○健康なまちづくり推進 ○保育所待機率の改善
目標2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する【コミュニティ参画・開発】	○健康なまちづくり推進 ○農業経営向上
目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する【組織統治】【環境】【コミュニティ参画・開発】	○福祉のまちづくり推進
目標4. すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する【人権】【コミュニティ参画・開発】	○教育環境の整備
目標5. ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う【人権】	○教育環境の整備
目標6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する【環境】	○アセットマネジメントの導入により、計画的な維持管理(下水道、道路など)
目標7. すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する【消費者課題/環境】	○環境保全のまちづくり推進
目標8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する【労働慣行】【組織統治】【人権】	○健康なまちづくり推進
目標9. 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る【組織統治】【コミュニティ参画・開発】	○行政改革5か年計画推進(部長目標計画の有効性含)

5.3 SDGs目標と自治体M市役所の推進施策(事例)(2/2)

SDGs目標	M市役所のSWOT分析後の推進施策
目標10. 各国内及び各国間の不平等を是正する 【人権】【組織統治】	○市民と問題意識を共有し、共に地域課題に取り組む
目標11. 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する 【組織統治】【コミュニティ参画・開発】	○市民対応市役所能力向上 ○災害に強いまちづくり推進 ○行政改革5ヵ年計画推進
目標12. 持続可能な生産消費形態を確保する 【消費者課題】【環境】【コミュニティ参画・開発】	○市民と問題意識を共有し、地域課題に取り組む ○環境保全まちづくり推進 ○観光都市づくり推進
目標13. 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる 【環境】【組織統治】	○環境保全のまちづくり推進
目標14. 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する 【環境】【組織統治】	○環境保全のまちづくり推進
目標15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する 【環境】【組織統治】	○環境保全のまちづくり推進
目標16. 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する 【公正な事業慣行】【組織統治】	○法令順守(廃棄物管理関係等) ○内部通報制度の活用
目標17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する 【組織統治】	○行政改革5ヵ年計画推進(部長目標計画の有効性含)

5. 4 SDGs目標計画管理表(自治体M市役所の事例)

年度 期 SDGs目標計画管理表(部門:)		年 月 日					
		承認			作成		
SDGs目標1: あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる		目標値: 計画策定(P): 2ヶ月後 実施開始(D): 3ヶ月後~4ヶ月後 チェック・改善(C/A): 5ヶ月目~6ヶ月後					
施策 ・①福祉のまちづくり推進 ・②健康なまちづくり推進 ・③保育所待機率の改善							
年 月		年 1月	年 2月	年 3月	年 4月	年 5月	年 6月
目標値	計画	①P _____	_____	D _____	_____	C/A _____	_____
		②P _____	_____	D _____	_____	C/A _____	_____
		③P _____	_____	D _____	_____	C/A _____	_____
	実績						
評価							
目標未達成時の追加改善策							
年月日 部門長・店長印 コメント							
年月日 経営者承認印 コメント							

5.5 SDGs目標と中小企業の推進施策(事例)(1/2)

(注) 中小企業の場合は、SWOT分析結果に経営面・製品開発・製造方法等の強化もあるが、[下表はSDGs目標に関連する施策を記載。](#)

SDGs目標【ISO26000の社会的責任の中核主題】	中小企業のSWOT分析後の推進施策
目標1. あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる【人権】	○ 地域の貧困による弱者に対する生活環境改善に協力する。
目標2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する【コミュニティ参画・開発】	○ 海外の貧困国に向けた、貧困国内で自立出来る技術を提供する。
目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する【組織統治】【労働慣行】【コミュニティ参画・開発】	○ 高齢者、障がい者等への弱者に対する自立できる支援を行う。
目標4. すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する【人権】【コミュニティ参画・開発】	○ 自治体と協力して、生涯教育の推進を行う
目標5. ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う【人権】	○ 多様性のある人々の特性を活用を行う
目標6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する【環境】	○ 緊急時の井戸水補給方法を検討する
目標7. すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する【消費者課題/環境】	○ 太陽光を活用するエネルギー確保を推進する
目標8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する【労働慣行】【組織統治】【人権】	○ 残業時間などを就業規則I指定内に納める監視を行う ○ モチベーションのあがる職場に改善する
目標9. 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る【組織統治】	○ 中期計画で、自社の特質を捉えた製品・サービスの開発を推進する

5.5 SDGs目標と中小企業の推進施策(事例)(2/2)

(注) 中小企業の場合は、SWOT分析結果に経営面・製品開発・製造方法等の強化もあるが、下表はSDGs目標に関連する施策を記載。

SDGs目標	中小企業のSWOT分析後の推進施策
目標10. 各国内及び各国間の不平等を是正する 【人権】【組織統治】	○ パワハラ／セクハラなどの人権問題の回避の監視体制を構築する
目標11. 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する【組織統治】	○ 震災時等で、避難民に対する支援を行う ○ 災害に強いまちづくりに協力する
目標12. 持続可能な生産消費形態を確保する 【消費者課題】【環境】	○ 商品の開発／製造／販売／消費者使用／廃棄の循環で環境に優しい製品・サービスを提供する
目標13. 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる 【環境】	○ CO2やフロン削減のための設備の改善や作業員の温度管理を推進する
目標14. 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する 【環境】	○ 海洋資源管理を行い、その監視装置などを開発して、持続可能な世界を確保する
目標15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する 【環境】	○ 生物多様性で種の激減に関する監視を行い、土地の劣化対策として植林などを行う
目標16. 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する 【公正な事業慣行】	○ 法令順守(廃棄物管理関係等) ○ 内部通報制度の整備・活用
目標17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する 【組織統治】	○ NPO／NGOを活用し持続可能な開発な製品・サービスを提供する。